

2026  
Sept  
9

KANZAKU  
No. 246

みんなで踊れば  
笑顔になれる



総踊り振り付け指導者

やま さき せつ こ  
**山崎 節子さん**

芸名・<sup>ふじ ましずきよ</sup>藤間静浄。藤間流師範として神埼市内で「<sup>しずきよかい</sup>静浄会」を主宰し、脊振・千代田・神埼の教室が集う「<sup>にちぶ</sup>日舞の会」会長、佐賀県舞踊の会会長を務める。福祉施設や児童クラブでのボランティア活動を長年続け、舞踊歴は60年以上。



## 宿場まつりとは



昭和57年、神埼町商店街の活性化を目的に「歩行者天国夜市」としてはじまり、平成7年に「長崎街道かんざき宿場まつり」として新たなスタートを切りました。旧長崎街道・櫛田通り沿線が歩行者天国となり、屋台やステージイベントで賑わいます。平成14年からは「宿場総踊り」が加わり、地域住民や企業が一体となって通りを練り歩く、夏の一大イベントとなっています。

### 踊り・舞の奉納



「日舞の会」のみなさんが涼やかな浴衣姿で踊りを披露し、感謝や祈願の思いを込めて櫛田宮に奉納しました。

### ステージイベント

長崎街道門前広場では、神舞太鼓や伝統舞踊、バンドライブなど多彩なパフォーマンスが繰り広げられ、夜まで祭りを盛り上げました。



### 夜市



櫛田宮を中心に、屋台やキッチンカーが並び、ステージイベントも行われるなど、神埼市内外から訪れた多くの人で賑わいました。

# みんな 笑顔で踊れば 笑顔になれる

長崎街道かんざき宿場まつり

宿場総踊り

江戸時代に長崎街道の「本宿」として栄えた神埼町。その賑わいを取り戻そうとはじまった「長崎街道かんざき宿場まつり」は、今年7月に第32回を迎えました。まつりの名物「宿場総踊り」を長年にわたって、地域の人に教え続けてきた山崎節子さん。神埼で生まれ育った山崎さんに、この踊りに込めた思いやきっかけ、活動の原動力についてお話を伺いました。



## 踊り祖父母からの贈り物



小さいころ、私に踊りを教えてくれたのは祖父母でした。昔は地域で祭りがあると聞けば、先生と一緒にいってござを敷いてみんなで踊りを披露していました。そんな環境で育ったから、結婚してしばらく離れていても自然と体に染み込んでいたんですね。昭和51年の「若楠国体」に総踊りで参加したことをきっかけに、再び日本舞踊を始め、それからもう50年。踊りはずっと私の生きがいのだから、教えることも楽しいんですよ。



## 宿場総踊りの振り付けに込めた思い

宿場総踊りのテーマ曲「よかね神埼」の振り付けを考え、振り付け図も手書きで作りました。歌詞に合わせた振りにしているので、脊振や神埼の風景を思い浮かべながら踊れます。

もう一曲の「MY DEAR 神埼」は、飛び入り参加でも気軽に楽しめるよう、3つの振りだけにしました。毎年、本番前に公民館で練習していて、今年は西九州大学の学生も参加してくれました。振りはありますが、きれいに踊らなくていいんです。楽しんで踊れば見てる人も楽しくなる、それが総踊りの醍醐味だと思っています。





福祉施設や地域の児童クラブ、大学でも出前講座をしています。福祉施設の利用者さんは、皆さん全身で楽しんでくれます。椅子に座っている方も手を動かしたり拍手をしてくれて、そんな姿にいつも元気をもらっています。小学生には、おじぎや扇子の開き方など礼儀作法から「さくらさくら」の基礎を丁寧に教えています。でも、踊りの楽しさって、踊ることだけじゃないんです。終わってからおしゃべりしたり、お茶を飲んだりするのも楽しみの1つ。みんなで集まって、踊って、笑って話す。そんな時間が今の時代には、とても大切だと感じます。

今年で84歳になりました。体を動かして頭を使う、それが健康の秘訣かもしれません。足腰も気持ちも元気でいられるのは踊りのおかげです。来年もぜひ多くの方に、宿場総踊りに参加してほしいですね。練習に来られなくても、当日の飛び入り参加も大歓迎です。難しく考えないで、上手じゃなくていい。飛んだり跳ねたりするだけでもいい。神埼の夏の踊りを、ぜひ一緒に楽しみましょう。

山崎さんから  
皆さんに伝えたいこと

#### 参加した留学生のみなさん

日本の文化を勉強していて、総踊りには昨年から参加しています。踊るのも楽しいですし、曲も大好きです。中でもお気に入りには「よかぬ神埼」です！



#### 見に来た町の方

昔はそうめん流しなどもあり、まちはとても賑わっていました。今でも総踊りが始まるとみんな家から出てきます。まちを練り歩く総踊りは、お祭りの中で一番の見どころです。

#### 日舞の会のみなさん

手の動きが歌詞にあっているの、地域の自然の風景を思い浮かべながら踊っています。1番は脊振の自然、2番は神埼の櫛田宮、3番は千代田の次郎の里。神埼を構成する3つの地域が、それぞれ異なるテーマで歌われている曲です。

7/14

西郷小学校で  
尾崎人形の絵付け体験

西郷小学校で、地域の伝統工芸を学ぶ「尾崎人形の絵付け体験」が行われました。

この体験学習は、地域の伝統工芸に親しみ、子どもたちにその魅力を知ってもらおうと30年以上前から続けられています。

子どもたちは、自分で型取りをした人形に絵付けを行い、色の組み合わせやデザインを工夫しながら、世界に一つだけの作品づくりに取り組みました。

完成した人形を手にした児童からは「色を塗るのが楽しかった」「大切に飾りたい」といった声が聞かれ、地域の伝統文化に触れる貴重な時間となりました。



7/19

## おはなしフェスタ 約200人が参加

読み語りボランティア9団体による「文化の杜ネットワーク」と図書館の共催で「第7回おはなしフェスタ」が行われ、約200人が来場。神埼高校2年生9名もボランティアとして参加しました。

實松市長による読み語りのあと、4つのブースに分かれ、おはなしの世界を楽しみました。読み聞かせでは、手話や手遊びを取り入れ、子どもたちも一緒に楽しめました。

最後には、神埼ライオンズクラブの協賛による「ほんのおかいものけん」が当たる抽選会も行われ、30人が当選しました。



7/18

## 馬場川親水公園周辺で清掃活動

神埼市水の郷再生市民会議は、馬場川親水公園周辺で清掃活動を行い、約70人が参加しました。

市民会議では、市民・関係団体・行政が連携して「水の郷かんざき」の再生を目指して取り組んでおり、長崎街道かんざき宿場まつりのイベントとして清掃活動を実施。

實松市長や市民らが旧庁舎跡地に集合して公園周辺の清掃活動や河川内の水草を除去しました。

川での生き物触れ合い体験に参加した親子は、素早く泳ぎ回るカワムツやフナに歓声を上げていました。



7/25

## 長崎街道かんざき宿場まつりが開催

第32回長崎街道かんざき宿場まつりが櫛田宮一帯の旧長崎街道周辺で開かれ、幅広い世代が真夏の風物詩を楽しみました。

まつりは、神埼高校の生徒も所属する神舞太鼓の演奏で開幕。SAGA久光スプリングスとトヨタ紡織九州レッドトルネードSAGAの選手はパレードやステージでのトークショーなどに参加し、会場を沸かせました。

歩行者天国でのお化け屋敷やゲーム、馬場川沿いに新設されたキッチンカーエリアなど、各所で大きな賑わいを見せました。



7/23

## 地域の防災力向上へ 新たな備え

B & G財団との協定書調印式と、防災機材のお披露目式を行いました。

今回の協定により、油圧ショベルや救助艇などの防災機材を広域的に活用し、災害時の物的・人的支援を行うことができるようになります。

調印式で菅原理事長は「配備された機材は、災害時はもちろん、平時においても積極的に活用していただきたい」と述べました。神崎市は、関係機関との連携を深めながら、今後の災害に備え、防災力をさらに強化していきたいと思います。



8/1-2

## 5チームが真夏の熱戦 神崎市長杯少年野球

第21回神崎市長杯少年野球大会が筑後川運動公園グラウンドと脊振グラウンドで行われました。

初日の開会式では大会副会長の牟田教育長が「今日までやってきたことを信じてプレーしてください」と激励し、千代田西部少年野球クラブの杠和絆主将が「最後の1球まで全力でプレーします」と選手宣誓。

決勝は千代田中部・千代田東部合同少年野球クラブが白熱した接戦を制し、優勝しました。

